魅惑の富良野

富良野医師会
北海道社会事業協会 富良野病院
名取　俊介

2000年に富良野に赴任して早19年になります。途中、留学期間を挟んでおりますが、医師としてのキャリアの半分以上を、縁もゆかりもないこの土地で過ごしていることに自分でも驚いています。その訳をちょっと考えてみました。

自分にとっての富良野の魅力はいくつもありますが、まずは、演劇の街としての魅力。ご存じのように当地は“北の国から”でブレイクし全国区となったのですが、『2002 遺言』をもって“北の国から”は幕を閉じました。なんと幸運にもその最後の作品に私も参加させてもらっています。ロケはほとんど丸１日がかりでしたが、使われたのはわずか数秒間だけという淋しいものでしたけど（蛍とのツーショットシーンです）。さらに、脚本家の倉本聰さんが設立した“富良野塾”の塾生がメインとなり発信している演劇を生で鑑賞できるのです。残念ながら“富良野塾”は2010年に閉塾となりましたが、その志は“富良野GROUP”と名を変えて継承されております。2000年には“富良野演劇工場”が完成し、こけら落とし公演として“走る”が上演されました。この“走る”という演劇では、市民がエキストラとして参加、出演できる場面があり、赴任早々そのニュースを聞きつけた私は、富良野公演の数日間のうち２～３回、走らせていただいたのを鮮明に覚えております。公演の最後には俳優さんと一緒にカーテンコールを受けるという、普通にはあり得ないご褒美付きでした。

ついで、農業の盛んな富良野ですから、いろんな野菜、果物がおいしいです。アスパラガス、とうもろこし、タマネギ、にんじん、スイカ、メロン、ブルーベリー、などなど、一級品を一年を通じていろいろと味わうことができます。採れたての生のアスパラガスがあんなに甘くて美味しいものだとは、本当にびっくりいたしました。もちろん、ラベンダーも忘れてはいけない富良野を代表する名産物です。街のあちこちで見かけることができますし、ラベンダー畑が観光客で大賑わいするのも風物詩ですね。酪農も盛んであり、乳製品もいろいろと味わえますよ。富良野チーズ工房、ふらのワイン工場などではふらのチーズ、ワインチェダーチーズ、イカスミチーズなどとふらのワインを一緒に堪能できます。チーズ工房ではバター、チーズ、アイス作りも体験できますのでご家族で楽しめること間違いありません。

アウトドアも盛んです。夏場は気球、モーターパラグライダー、ラフティング、キャニオニング、登山など経験豊かなスタッフが付き添ってくれるツアーもあります。スキー場を逆走するという想像しただけでも疲労困憊になりそうなトレイルラン大会が９月に、最長130kmから最短50kmまでのコースが選べるバイクイベントが６月と９月に開催されています（グレートアース、センチュリーライド）。十勝岳温泉ヒルクライムレースも定番になって、全道から坂バカたちが集います。冬はスキー、スノボ、バックカントリースキー、スノーシューツアー、などが最高の雪質で楽しめます。それを狙ってオーストラリアやアジア諸国、遠くはヨーロッパからもたくさん観光の方が訪れるようになりました。

こういった環境の中、年々肥大化していく自分が、ひょんなことから身体を動かすようになりました。トレーニングは80歳を超えても効果があるし、身体が動かせるようになると元気になるんだなぁと実感しています。筋トレと同時にスイムも始めたのですが、道民の多くがそうであるように、私も金鎚で全くもって泳げず、50過ぎのおじさんが、文字通り、藁をもつかむように必死にあがいてもがいても25mに足りず。それでも断念することなく続けていましたら、なんとか息継ぎができるようになっちゃったんですよね。息継ぎできて25m泳げるようになり、それが50mとなり、75m、100mとなると、スピードは遅いけど500mとか泳げる自分がいました。歳を重ねるごとにできなくなることが増えて、諦めることも多くなった自分にとって、新しくできるようになるということが凄く新鮮で、エネルギーをもらうことができました。それにより気持ちもpositiveになりmotivationもあがり、新しく日本糖尿病学会に加入し、学会で発表する機動力になったりしています。

そんな魅力の多い富良野圏域ですが、いま医師不足、特に内科医不足で困っています。もしこの記事をお読みいただいた方ご自身や、あるいはその方のお知り合いで富良野に魅力を感じる方がいらっしゃいましたら歓迎いたしますので、ぜひ病院（0167-23-2181）までご一報いただけましたらと思います。